

混合交通を観察する
DOCUMENT
series—217
Eye

6歳未満の幼児をクルマに同乗させる際は、チャイルドシートの使用が法律で義務づけられている。チャイルドシートは正しく使用することによって、衝突事故が発生した際に幼児の身体を保持して損傷の程度を軽減する。ところが、平成19年に警察庁とJAF(社) 日本自動車連盟)が行った「チャイルドシート使用状況全国調査」では、使用率が46%

● WHY
チャイルドシートを
使用しているか?



そのまま着座している子どもは、車内で動き回る様子が見られた

9%だった。
(財) 交通事故総合分析センター資料(平成19年)によると、5歳以下の死傷者を状態別にみると、クルマに同乗中が6割程度を占めており、特に軽自動車同乗中は増加傾向にある。また、子どもを軽自動車に同乗させる場合、普通自動車に比べて後席に乗せる割合が低いという結果がでている。

- 観察場所 / 埼玉県比企郡滑川町の大型商業施設出入口付近3カ所
- 観察日 / 2月11日(月曜日)
- 天候 / 晴れ
- 観察時間 / 10:30~11:30
- 観察者 / 5名

● チャイルドシート使用状況を観察する
**チャイルドシートを使用していた幼児は
136人中20人(14.7%)**



軽自動車の後部座席で抱っこされる子ども



前席で大人用シートベルトを着用

● WATCHING
今回の観察では、軽自動車と普通自動車に分け、それぞれチャイルドシートの使用状況を観察した。

● PROPOSE
チャイルドシートを使用せずそのまま着座させている例がほとんど

観察場所は埼玉県比企郡にある大型商業施設付近。高速道路のインターチェンジからほど近く、私鉄の駅からも徒歩15分ほどの立地。クルマで買物にくる人々が賑わっていた。

6歳未満の子どもが同乗しているクルマを観察した結果、チャイルドシートを使用していた幼児は、136人中20人(14.7%)。内訳は、軽自動車で50人中5人(10%)、普通自動車で86人中15人(17.4%)だった。

一方、チャイルドシートを使用していない子どもの中には立ち上がったたり、大人用のシートベルトをしている子どもも見られた。

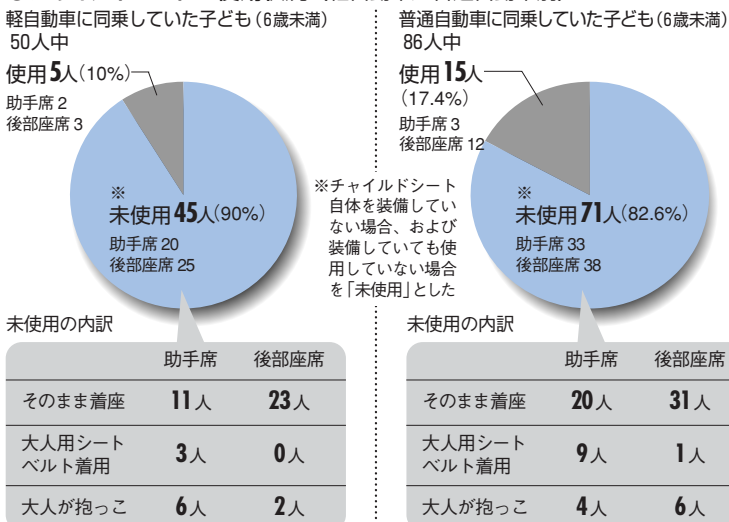
シートを装備していない例も目立っていた。普通自動車では後部座席にチャイルドシートを備えている例が軽自動車に比べて多かったが、使用せずにそのまま着座している例がほとんどで、軽自動車、普通自動車ともに傾向に差が見られなかった。

● PROPOSE
観察場所のような郊外の商業施設付近では、近距離での利用という油断から使用していなかったのではないだろうか。

● PROPOSE
チャイルドシートの重要性を理解し正しい使用を

6歳未満の子どもは、家族が運転するクルマに同乗して移動する機会が多い。大切な家族を守るために、ちょっとした距離の移動でもチャイルドシートを使用することが基本である。

●チャイルドシートの使用状況(軽自動車/普通自動車別)



*同乗している子どもが6歳未満かどうかの判断は観察者の見解による

●女性ドライバー向け安全小冊子
「女性のための
運転サポートBOOK」発行



Hondaは、女性ドライバーに安全で快適な運転をしていただくための小冊子「女性のための運転サポートBOOK」を作成した。通勤、買い物、家族の送迎、ドライブなど、生活の中でクルマを利用する女性が増えている。この小冊子では、車庫入れやエコドライブのコツなど様々なアドバイスを掲載している。Hondaの四輪販売会社を通じて、お客様に配布する。

- 主な内容
- ① 運転への不安を解消したい!
 - ② より安全で周囲に配慮した運転をしたい!
 - ③ 家族を乗せて出かけたい!
 - ④ 環境にやさしく、経済的な運転をしたい!
 - ⑤ いつまでも安全に運転を続けたい!
- [資料編] 万一の時の対応他
[特別付録] バラの香りつき「花のしおり」
※「女性のための運転サポートBOOK」は下記ホームページアドレスからPDFファイルにてご覧いただけます。
<http://www.honda.co.jp/safetyinfo/kyt/woman/>

●お問い合わせ先
本田技研工業(株)安全運転普及本部
TEL: 03-5412-1736